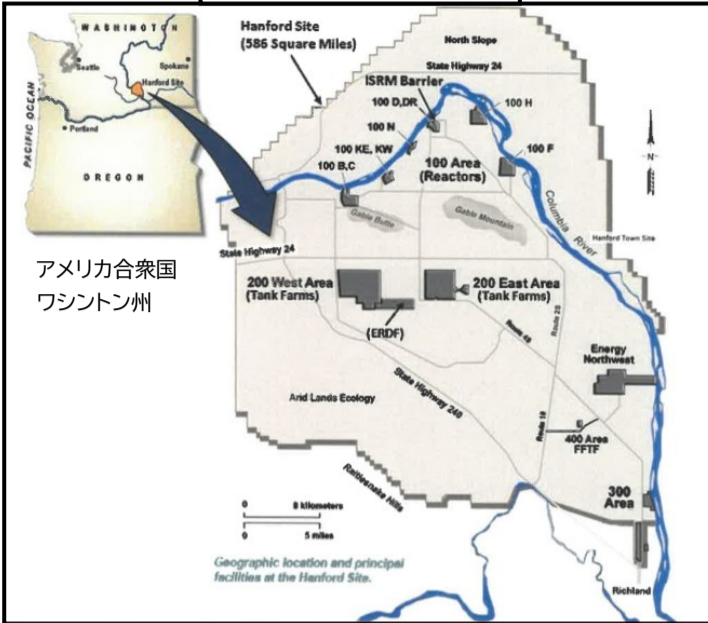


ハンフォード・サイトの位置



アメリカ合衆国
ワシントン州

事業目的 (大学等の「復興創」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業、令和元年度)

本事業の主な趣旨は、東日本国際大学福島復興創世研究所をコーディネーターとして、福島県のいわき市・双葉地方8町村、いわき商工会議所、双葉郡の商工会(産業界)が産学官一体となって米国ハンフォードの主な機関(TRIDEC、ワシントン州立大学、コロンビアバースン短期大学、パシフィックノースウェスト国立研究所等)と緊密な関係を築き、福島浜通りがハンフォードをモデルとして、廃炉の進展、産業の振興等をより一層促進させ、福島浜通りの復興に寄与することである。

ハンフォード・サイトの歴史

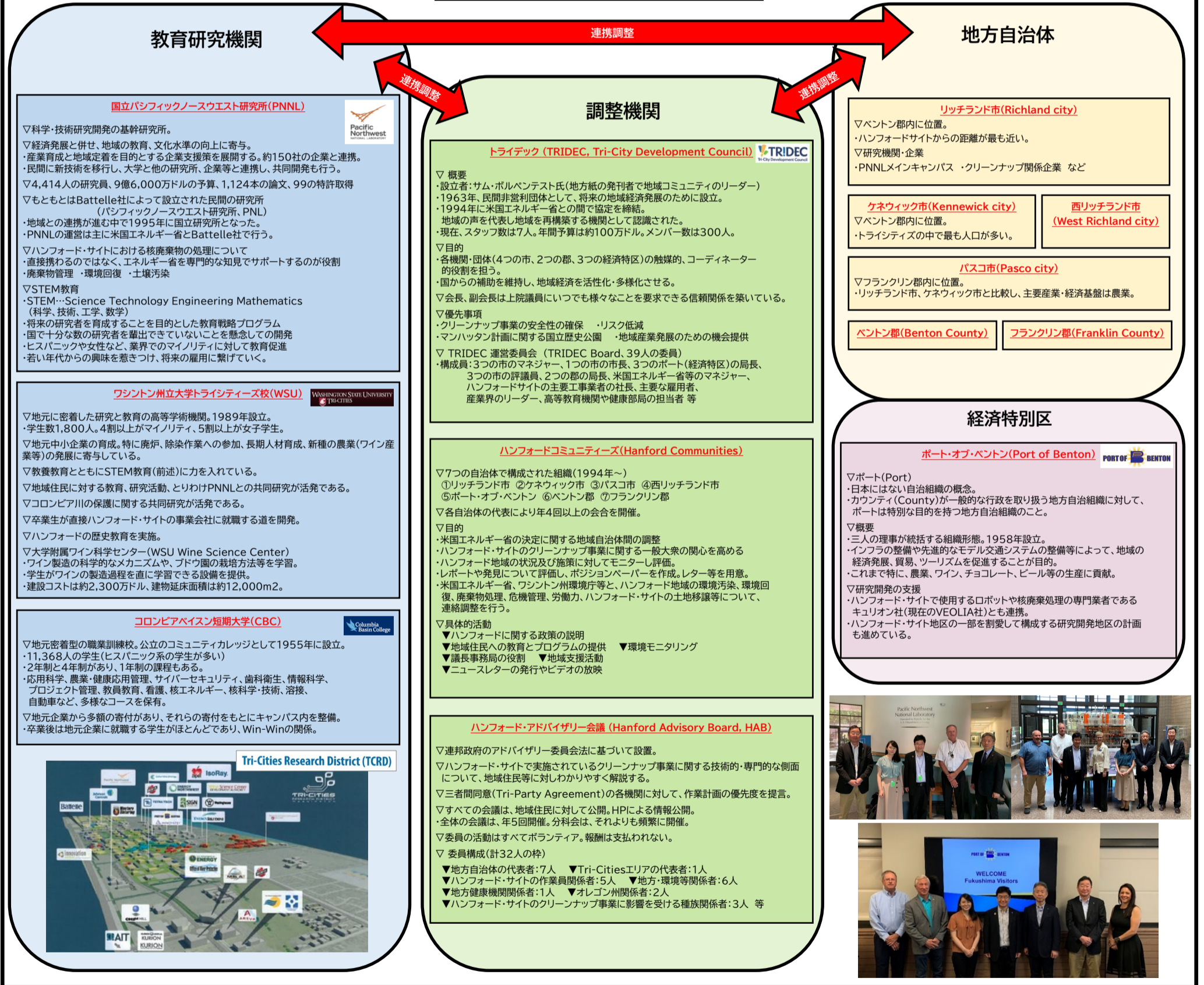
・ハンフォード・サイト…アメリカ・ワシントン州の南東に位置し、第二次世界大戦中マンハッタン計画のもとで40年以上原子爆弾のためのプルトニウムを精製。現在は稼働していないが、米国で最大級の核廃棄物問題を抱えており、環境回復作業(クリーンアップ)が続けられている。ここで作られた原料からプルトニウム型原子爆弾がロスアラモス研究所で製造され、ニューメキシコ州、アラモゴード爆撃試験場での核実験(トリニティ実験)に使われた。その後長崎で実戦使用された(1945年、長崎への原子爆弾投下)。近年のクリーンアップ作業は、コロンビア川周辺、中央台地、タンク処理を中心に実施。

・三者合意(Tri-Party Agreement 1989年5月締結)

ハンフォード・サイトのクリーンアップ事業について、米国エネルギー省(US DOE)、米国環境庁(US EPA)、ワシントン州環境部(WS DOE)の三者による、法的拘束力を持ち、実行計画、住民参加を含んだ合意。これに基づき、米国政府の予算によるハンフォード・サイトのクリーンアップ事業が開始。河川地帯のクリーンアップに今後5~10年、中央台地を含む全体のクリーンアップに今後50~60年かかる見込みで、そのコストは、3230億ドル~6770億ドルと想定されている。また、2019年度のクリーンアップに要するエネルギー省予算は、24億ドルを超える。クリーンアップの終了までには、様々な技術革新が必要とされている。

・東京電力福島第一原子力発電所の事故と異なり、ハンフォード・サイトからの放射性物質の放出は、通常の作業によるものであり、1986年までは公にされていなかった。主に1944年~1972年、大量の放射性物質が空気中、コロンビア川、土壌・地下水等に放出され、汚染の影響を及ぼした。

ハンフォード・サイト周辺のステークホルダー



福島浜通りへの適応

- ・原発事故とは成り立ちは異なるが、浜通り地区の今後数10年の復興・再生を考えたとき、放射能汚染地区から米国でも有数の繁栄都市(全米で6番目の人口増加率。2013年)となったハンフォードに学ぶべきものは多い。
- ・いわき市という都市と双葉郡8町村という小さな町村が一緒になってまちづくりを進めていく上で、最も重要なことは「透明性」と「信頼性」の確立。
- ・今後の多くの検証が必要となってくることになる。

今後のスケジュール

- ▽今回のハンフォード訪問について、いわき市・双葉郡8町村の各首長に説明。
- ▽マーク・トリプレット氏の来日(11月5~8日 予定)
- ・PNNLシニアアドバイザーであるマーク氏。今回のハンフォード訪問における全体的なコーディネーターであり、これまで日本からの全視察団の案内役を務めている。
- ・マーク氏の来日期間中、いわき市・双葉郡8町村(双葉地方町村会)の首長表敬訪問、関係機関・団体訪問との意見交換、セミナーの開催を予定している。
- ▽国際シンポジウムの開催。(2020年1月予定)
- ・ハンフォード関係者の基調講演。地元関係者を含めたパネルディスカッションを行う。